

## □ プロローグ：秋田の海の豊かさと魅力をミュージカル風に展開

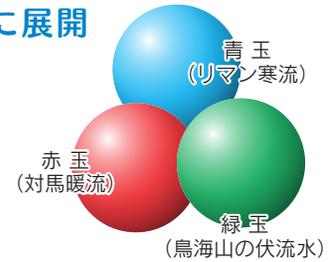
【ナビゲーター】壇蜜

【秋田の高校生】郁美：三浦莉央、風太：村上雅迪、海斗：伊藤綾真

【水の精】ダンススタジオ S.T.Rays

ダンススタジオ S.T.Rays Jr.

たなはしあゆこバレエスクール



### 1 旅の始まり：大会の幕開け

【なまはげ太鼓】秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部

ユネスコ無形文化遺産の男鹿のなまはげ。なまはげの姿に扮した秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部の生徒たちが打ち鳴らす「なまはげ太鼓」によって、秋田での全国豊かな海づくり大会の幕開けが高らかに告げられる。

### 2 旅の始まり：秋田の海の魅力を探す旅

秋田の3人の高校生。ナビゲーターから、秋田の海の魅力を探る旅へといざなわれる。



### (第1章)

### 3 秋田の海 生命の流れ

赤玉(対馬暖流)、青玉(リマン寒流)、緑玉(鳥海山の伏流水)の海玉を持った水の精が次々と現れる。海玉を託された高校生は、暖流と寒流が大地の栄養を含んだ伏流水と出会い交わることによって、生命が育まれている秋田の海の豊かさを知る。

### (第2章)

### 4 海との関わり、海の祭：大陸との交流

奈良・平安時代、出羽国秋田にあった秋田城。世界最古1,200年前の水洗トイレが発掘された。大陸の渤海国(ぼっかいこく)との交流があったと考えられている。高校生は、秋田は古くから海を越えて交流があったことを知る。



### 5 海との関わり、海の祭：大正寺おけさ

【大正寺おけさ】大正寺おけさ保存会、秋田和洋女子高等学校郷土文化部

江戸中期から明治の初めにかけて北海道と大阪を結び日本海を往来した北前船。九州で生まれた「ハイヤ節」が北前船の船頭衆によって日本各地に広められた。秋田の土崎港から雄物川を遡上して伝えられたとされている、民謡「大正寺おけさ」と手踊りが披露された。



## 6 海との関わり、海の祭:掛魚(かけよ)まつり

【金浦神楽】金浦神楽保存会

船主がとれた中で一番大きな鱈を神に供え、大漁や海上安全を祈願し、神前でつくった大鍋の「鱈汁」を参詣人にふるまってきた。別名『鱈まつり』。鱈を担ぎ、金浦漁港から金浦山神社まで練り歩く祭の様子が「金浦(きんぼう)神楽」の演奏とともに再現された。高校生は、祭を通じて、海との関わりを学んだ。



### (第3章)

## 7 秋田の地魚、漁業、食文化:新秋田音頭・さかな音頭

【新秋田音頭・さかな音頭】秋田の高校生、水の精

秋田を代表する魚「ハタハタ」。かつて、漁獲量減少の危機的状況に際し、3年間全面禁漁した歴史がある。高校生は、家族から伝えられたこの歴史に思いを巡らし、「新秋田音頭・さかな音頭」のリズムにのせ、秋田の海の豊かさ、地魚の魅力などを歌い上げた。

### (第4章)

## 8 海の未来を担う:海を守り育てる取組

種苗放流等、秋田の水産業の現場で行われている「海を守り育てる取組(環境保全・資源保護の活動)」を通じて、高校生は、自分たちが今後どのように海と向き合い、関わっていくかを、それぞれの立場から考え、決意を発信した。



## 9 海の未来を担う:僕たちの未来

【僕たちの未来】渡部 絢也、秋田の高校生、水の精、秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部

暖流、寒流、伏流水の水の精によって囲まれた高校生は、海とともに歩いていく気持ちを、秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部の演奏とともに秋田の応援ソング「僕たちの未来」に乗せた。

